

## 訪問看護の立場から

大河内 順子（大和田訪問看護ステーション 所長）

大和田訪問看護ステーションは千葉県八千代市にあり、人口約19万人の都市です。

当ステーションは平成10年に設立、11年が経過しました。看護師8名（常勤4名・非常勤4名）、ケアマネージャー2名、事務職1名の総勢11名のスタッフで構成されます。利用者数は約70名。訪問件数は1ヶ月約300件で小児から後期高齢者まで幅広い年齢層を対象としています。疾患別では精神、難病、癌の末期、慢性疾患（認知症、脳梗塞、心疾患、肺疾患）などです。当ステーションは開設当初より在宅看取りに力を入れて行って来ました。H21年12月までに135名の看取りを行いその中で癌の末期は84名です。連携先として在宅支援診療所6医院、開業医13医院、病院13病院、合計で常に30以上の医療機関と連携を持っています。連携の取り組みとして①在宅支援診療所と週1回の合同カンファ。②東京女子医科大学八千代医療センター勉強会への参加。③看護学生の受入れ。④看護協会主催医療機関に勤務する看護師の相互研修の受入れ。⑤近隣病院との連携 等があります。このように積極的に連携をとっていますが医療関係者をはじめ地域関係事業者においても訪問看護の内容や実際を知らない人が多くいる事を実感しています。その為より多くの人に訪問看護を知ってもらう為の取り組みが必要になります。現在行っている病院関係者に在宅を見てもらう事は在宅の様子がわかると共に、家族から率直な意見の確認ができ連携の振り返りと今後の連携の充実に繋がります。教員の研修では在宅を知る事で教科書だけでは知り得ない生きた教育ができます。学生実習では病院との比較ができ在宅の様子から新鮮な気づきや学びが、これからの医療現場を支える看護師として今後の地域連携がスムーズになる事に繋がります。今回「出会い、学び、融合」のテーマで訪問看護の立場から述べさせていただきました。利用者様を中心にその家族や支援する他職種が存在があり出会いがあります。そして支援を通し色々な学びがあり、皆がそれぞれの役割に最善を尽くす事がその結果に利用者様が満足できるサービスに繋がっていると思います。この発表を通して皆様方との出会いがあり訪問看護への理解者が増えたと確信しております。そして今後協働しよりよい連携が出来る事を願っています。